

DU WATCH

劣化ウラン研究会ニュースレター 第23号 (2009/11)

----- [はじめに] -----

いま、ファルージャで深刻な健康被害が広がっている。ここに訳出したのは、ファルージャの子どもたちが置かれている惨状を国連で取り上げられることを訴える書名運動の呼びかけなのだが、その深刻さは英国のスカイテレビで報じられている。英国ではかなりの反響があったようだが、政府はファルージャ攻撃との因果関係を否定している。

原因はいろいろと考えられ、特に白燐弾の使用が一つの要因ではないかと疑われている。それと劣化ウランだ。

ファティマ・アーメドは2つの頭を持ってファルージャで生まれた

2009年10月18日国連総会宛の要請文

若い女性たちはイラクのファルージャで、うろこ状の皮膚を持つ体（先天性角化症）、四肢欠損症、無頭症、二重胎児、単眼症などの赤ん坊が増加するなか、そのような子どもを出産することを恐れています。

さらに追い打ちを掛けるごとく、恐ろしいことに幼い子供たちがファルージャでガンおよび白血病の増加に見舞われています。

これらの形態異常は2009年9月1日にと2008年6月に英国のスカイテレビによるドキュメンタリーにより広く公表されています。

取材陣は直接にファルージャで医師と接触してレポートしており、それによれば、2009年9月に、ファルージャ総合病院で生まれた170人の新生児のうち実に24%が最初の7日間で死亡しました。驚くことにそのうちの75%の新生児が形態異常を持っていました。2002年8月（すなわちイラク攻撃、ファルージャ攻撃前である【訳注】）の記録では530人の出生

中、最初の7日間で死亡したのは6名、そのうち形態異常が見られたのはたった一人でした。

医師はファルージャにおいて、とりわけ先天性欠損症だけの例を目撃しているわけではありません。早産もまた同様に2003年当時に比較して増加していることを指摘しています。さらに驚くことに医師によれば「生き残った新生児も無視できない大勢の子どもがその後ひどい障害を起こしている」のだと言います。

医師のグループの1人、英国の臨床医クリス・バーンズ-コックス博士は、この状況についてブレア政権で国際開発大臣を務めていたクレア・ショート議員に手紙を書いています。クレア・ショートは2003年5月にイラク戦争反対の立場を貫くために辞任しましたが、形態異常に関する質問については後任のダグラス・アレクサンダー大臣に手紙を送りました。

コックス博士は国際開発省政務長官ガレス・トーマス氏から2009年9月3日付

で回答（スカイテレビによる9月1日の放送から2日後）を受けました。

彼の回答はファルージャにおける年間2ないし3人を超える規模の形態異常出産があることを否定し、従って問題がないと断言するものでした。

これはファルージャに関するまさにデータラメな報告です。

一つの墓地の、ある墓掘り職人は一日あたり4人から5人埋葬をしています、その大部分が形態異常を示していると言います。

クレア・ショートは私たちに手紙の写しを手渡しました。

それは子供の健康および劣化ウランの使用について4年間に受け取った3つの別々の書簡の回答に、注目に値する類似性を持っています。手紙は嘘と特定の目的に基づいて書かれていて、これらが受取人を混乱させるようになっています。自叙伝「高潔な欺瞞？」の著者クレア・ショートは「10番地（ダウニング街）の本能は嘘をつくことである。」と言います。私たちは極めて深刻な手紙を受け取り、トーマス氏の書いた文章を、そして私たちが他の手紙に書かれた虚偽を見つめます。これらの手紙は小さな汚職や税金の問題ではなく、軍と致命的な兵器の使用についてのものです。ある特定の兵器の使用は、途方もなく大きいツケを生みます。イラクは手をこまねいていると子どもがいない国になってしまうでしょう。他の国々がイラクに何が起きたかを見習い、国連憲章、ジュネーブおよびハーグ条約および国際刑事裁判所ローマ規定の完全な無視を模倣することになるでしょう。

いくつかの国、例えばアフガニスタンのような国では劣化ウランや黄リン弾などの破壊的な環境影響を長期間にわたり受けることとなります。

私たちが国際開発省に我々の手紙で言うように、英国政府が明確にそれを使用し、結果を知らないままに政策として「犠牲者数を数えない」場合は、英国政府はどのようにそれがイラク戦争において特に「比例」という言葉で、国際法によるアフガニスタンおよび自然環境に長期の被害を与えるようなことは行なっていないと判断することができるでしょうか？

英国がどのようにして、ストームシャドウ・ミサイル（英国・フランス・イタリアが共同開発した空中発射型巡航ミサイル、2003年のイラク戦争で初めて実戦使用された：訳注）のような国際市場で売る兵器システムの違法性について、イラクの子供たちや大人たちの死そして医療行為の必要性を評価するべき、まさしく政府と省が、真実を話してるかどうか知ることができるでしょうか。

私たちは国連総会に対して下記の通り求める：

1. イラク、特にファルージャ、バスラ、バグダッドおよびナジャフに先天性欠損症およびガンの症例が、これまでにない規模に数が増えていることに関して深刻な問題があることを認め
2. イラクに先天性欠損症およびガンの症例が増加した問題について十分な調査を行なう独立委員会を設置し
3. 劣化ウランおよび黄リンを含めて占領軍によって使われた有毒物質の洗浄を実行し
4. これらの危険に対し子どもたちや大人たちを守るためにも、被曝を最小限にするためにも汚染エリアを規制し
5. 国連憲章、ジュネーブおよびハーグ議定書および国際刑事裁判所ローマ規定を支持し、戦争犯罪、あるいは人類に対する罪が犯されたかどうか調査すること。

ドイツ連邦軍マニュアルに記された「アフガニスタンにおける劣化ウラン」対策

2009年8月9日

最近、ドイツの活動家たちが入手したドイツ連邦軍兵士用に作成された「マニュアル」から、アフガニスタンにおいても劣化ウラン兵器が使用されてきていることが確認されました。(いままでも推測されていたことではあります。) この「マニュアル」は、アフガニスタンに派遣されるドイツ連邦軍兵士用に、2005年後半、ドイツ連邦コミュニケーションセンターによって作成され、NATO 軍内での使用に限られた機密扱いマニュアルです。以下、

ICBUW ホームページにアップされているニュース (2009年7月21日付け) の要点の紹介です。ICBUW ホームページには、「マニュアル」の写真もアップされていますので、ご参照ください。

<http://www.bandepleteduranium.org/en/a/283.html>

嘉指信雄 NODU ヒロシマ・プロジェクト
(ICBUW ヒロシマ・オフィス)

「マニュアル」の劣化ウランに関するセクション

「タリバン体制に対する北部同盟を支持して行われた「不朽の自由作戦」(Operation Enduring Freedom) において、米空軍は、他の兵器とともに、劣化ウランを中心部に用いた装甲貫通焼夷弾を使用した。このタイプの砲弾は、その自然発火する性質により、硬い標的(戦車や車など)に対し使用された場合、ウランが燃える。燃焼により、毒性のあるチリが、特に標的やその周辺に堆積し、これらのチリは、容易に空気中に再び巻き上げられることとなる。

続けて、その対策に関するセクションでは

「劣化ウラン砲弾は、その重金属毒性および低レベル放射線により、被曝した人員に対し、毒物・放射線被害を引き起こしうる。こうした兵器が使用されたと疑

われる場合——焼け崩れた車や戦車、車両群、あるいは30ミリ砲弾によって出来る典型的な穴が見つかった場合——砲弾が衝突した近辺においては、NBC(放射能・生物・化学的)安全対策部隊がそうした脅威を完全に排除するまで、防御スーツとNBCマスクを装着しなくてはならない。」

[さらに、下記のような具体的指示のリストが続いている。]

- ・不必要に砲弾、砲弾の部分、あるいは、汚染されているかもしれない、いかなる物質にも接触しないこと。
- ・被曝してしまったかもしれない場合は、NBC(放射能・生物・化学的)部隊の検査を受けること。
- ・フィルム線量計を配布すること。
- ・NBCマスクを装着すること。
- ・衣服をしっかりと締めること、あるいは、NBC防御スーツを身につけること。
- ・劣化ウラン汚染した物質とのいかなる接

触も記録に残すこと（誰が、どこで、いつ、何と、どれくらい長く、そして線量は）
・ただちに報告するとともに、線量計を提出すること。
・担当の部隊付き医師を呼ぶこと。

〔以上のような、「マニュアル」に記載された情報に基づき、ドイツの活動家たちは、ドイツ政府に対し劣化ウラン兵器禁止を求め働きを強めている。

国連総会において、二年連続で採択された「劣化ウラン決議」に力づけられ、ドイツの「緑の党」は、ドイツ政府に対し、「劣化ウラン兵器禁止国内法」の成立を提案するとともに、他の諸国に対しても、EU、NATO、国連などの場において、モラトリアム、そして最終的には世界的禁止に向け取り組むよう強く求めた。「国防小委員会」での公聴会において、「緑の党」の提案は、社会民主党員が反対し、自由党員が棄権したため、採択されなかった。連立与党のメンバーである保守連合は、委員会への出席を拒否した。

ドイツの活動家たちは、現在のところ、政府がウラン兵器の禁止あるいはモラトリアムに向けて動くことはありそうにないと考えている……。

しかしながら、社会民主党員と自由党員から支持を得られそうな徴候が見られる。前者は、基本的にはモラトリアムに賛成であり……後者は、劣化ウラン兵器問題に引き続いて関わる姿勢を見せている。ただ、彼らが今回の提案に反対したのは、ドイツにおける劣化ウランの輸送および貯蔵に関する条項が含まれていたからだった。公聴会を通じて、ドイツ国防省はDUの移送に関するデータを全く持っていないため、委員会メンバーに対し、どれほどの劣化ウランが、同盟国によってドイツ領土内に貯蔵されていたり、領土内を通過して輸送されているのか答えられないことが明らかとなった。

（以上、ニュースより）

このニュースは、言うまでもありませんが、イラク戦争後、イラクに自衛隊を派遣した日本にとっても極めて重い意味を持っています。また、これからの日本での劣化ウラン兵器禁止キャンペーンでも一つの決定的要因となるものと思われる。

ラテン・アメリカ議会が「DU兵器モラトリアム決議」採択！ 9月10日

皆様

9月10日、南米諸国によって構成される「ラテン・アメリカ会議」(Latin American Parliament)の「人権委員会」で、「劣化ウラン(DU)兵器決議」が採択されました。この決議は、南米諸国に対し、DU兵器の使用・生産・調達などのモラトリアム(一時停止)に加え、DU兵器の世界的な禁止条約の実現に向け取り組むよう

求めています。決議原文および英訳は、下記サイト参照

<http://www.bandepleteduranium.org/en/a/289.html>

〔今回の決議は、ラテン・アメリカ議会議会人権委員会の委員長をつとめるコスタリカのアレクサンデル・モラ＝モラ議員によって提案されたもので、すでにお知ら

せしておりますように、モラ＝モラ議員は、今年3月、コスタリカ議会にDU兵器禁止法案を提出しています。

コスタリカの国内法として、DU兵器の使用・貯蔵などを禁止するこの法案は、3月5-6日、コスタリカのサンホセで開かれた第5回ICBUW（ウラン兵器禁止を求める国際連合）国際大会の前日に提出されたものですが、数ヶ月のうちに成立する見通しで、2007年3月にDU兵器禁止法を可決したベルギーにコスタリカが続くこととなります。

モラ＝モラ議員は、ICBUWコスタリカ大会に参加した際、国際的なDU兵器禁止条約を実現するためには、“できる限り速やかに”動くことの必要性を強調しており、今回のラテン・アメリカ会議の決議採択は、その具体的な一歩といえます。[今回の決議採択に向け、モラ＝モラ議員は、ICBUWコスタリカ会議の直後、アルゼンチ

ンのブエノス・アイレスで開かれたラテン・アメリカ会議において、ICBUWメンバーのダマシオ・ロペス氏とともにDU兵器禁止に向けたアピールをしました。ダマシオ・ロペス氏は、アメリカのニューメキシコ州在住の、スペイン語も堪能な活動家で、2006年8月のICBUWヒロシマ大会にも参加しています。]

こうしたラテン・アメリカからも出てきたDU兵器禁止への機運の高まりを活かし、日本でも改めて一丸となって取り組んでゆきたく思います。一層のご支援の程、宜しくお願いいたします。

嘉指信雄、ICBUW運営委員

<http://www.nodu-hiroshima.org/>

* ICBUW国際キャンペーンについては、『ウラン兵器なき世界をめざして ICBUWの挑戦』（合同出版、2008年4月）を参照ください。

ウラン兵器禁止を求める国際連合（ICBUW）ジャパン

日本政府に要請文

2009年10月13日

ICBUW ジャパンは日本政府に対して下記の「要請文」を提出しました。

なお、日本政府に対しては、新政権の下で、ウラン兵器禁止に向けた積極的な政策を打ち出すよう求め、皆さんとともに対政府交渉（新政権の動きも見ながら、できれば年内に）にも取り組みたいと考えています。

今後ともどうぞよろしくご協力のほど、お願い申し上げます。

ICBUW 運営委員：嘉指信雄、森瀧春子、振津かつみ

【要請文】

「劣化ウランを含む武器・砲弾の使用が

人体や環境に及ぼす影響に関する評価」を第63回WHO総会の議題として提案することを求めます

2009年10月13日

外務大臣 岡田克也 様

厚生労働大臣 長妻 昭 様

劣化ウラン兵器は、地雷やクラスター爆弾と同じく、国際人道・人権法に反する「非人道的無差別殺傷兵器」です。劣化ウラン弾は、戦車などの固い標的に当たると高熱を発生して燃え上がり、装甲を貫通します。その際に劣化ウランは細かい粒子となって散らばり、環境を汚染し

ます。そして、兵士のみならず周辺で暮らす一般市民も、この劣化ウランの微粒子を吸い込むなどして身体に取り込むと、体内から被曝します。

ウラン兵器は核兵器（＝核エネルギーを破壊力に用いる兵器）ではありませんが、核兵器と同じく放射能汚染と被曝をもたらします。汚染と被曝は、戦争が終わっても長期にわたって続きます。

劣化ウランは、放射性毒性だけでなく、重金属としての化学毒性もあり、がんをはじめ、健康へ様々な有害作用を及ぼすことが動物実験などですでに明らかになっています。

このような劣化ウラン兵器については、「予防原則」に基づき、使用のモラトリアムや禁止を求める動きが国際的にも出始めています。（2007年3月には、世界に先駆けてベルギーで「劣化ウラン兵器禁止」法が採択され、2009年6月発効しました。同様の禁止国内法は、中米コスタリカの国会でも審議中であり、間もなく成立の見通し。さらに、欧州議会では2008年5月、ラテンアメリカ議会人権委員会では2009年9月、同兵器のモラトリアムや禁止を求める決議が採択されるなど。）

国連総会では、「劣化ウランを含む武器・砲弾の使用が人体や環境に及ぼす、潜在的に有害な影響を考慮」し、2007年、2008年の2回にわたり、「劣化ウランを含む武器・砲弾の使用による影響」に関する決議が採択されました。この決議に従って、国連事務総長は、国連加盟国と世界保健機構（WHO）などの関連国際機関に、同兵器使用がもたらす影響に関する見解を求めています。

とりわけ、世界の人々の保健のために活動することを趣旨とするWHOの見解は、この問題においても国際的に大きな影響力を持つものです。しかしながら、2007

年の第62回国連決議にもとづいて、昨年、事務総長に提出されたWHOの見解は、例えば劣化ウランの発がん性には一切言及していないなど、科学的にも極めて不十分な内容に留まっています。

2008年の第63回国連決議に基づき、WHOには、来年2010年の国連総会に向けてその見解を「適切な形で更新する」ことが求められています。最新の科学的知見を十分に検討し、放射性毒性や化学毒性に対する感受性の高い小児や妊婦・胎児への影響にも十分に配慮するなど、真に「公衆の健康を守る」立場からWHOの見解が更新されることが重要です。そのためにも、「劣化ウランを含む武器・砲弾の使用が人体や環境に及ぼす影響」について、全てのWHO加盟国一とりわけ同兵器の影響を受けた国々の保健省、WHO内外の専門家、関連のNGO等が参加する、公開の議論がWHO総会でなされることが、ぜひとも必要です。

日本政府が、来年の第63回WHO総会の議題に、「劣化ウランを含む武器・砲弾の使用が人体や環境に及ぼす影響に関する評価」を提案することを要請致します。同提案は、「被爆国」日本として、放射能汚染とその被害を繰り返さないことを訴えるという立場からも、積極的に行うべきです。WHOの規則に則り、来年1月に予定されている評議国会議の10週間前まで（本年10月末頃）に、WHO事務総長に議題案を提出する必要があります。早急にご検討、ご決断されますようお願い致します。

ウラン兵器禁止を求める国際連合（ICBUW）ジャパン

ICBUW運営委員：嘉指信雄、振津かつみ、森瀧春子

ニュースクリップ

「冬の兵士」日本ツアー開催

「冬の兵士」とは、「イラク・アフガニスタン帰還兵士の会」が2008年3月13日から4日間にわたり、メリーランド州シルバースプリング市の大学を会場にして行なわれた公聴会 Winter Soldier のことです。この公聴会の模様を記録したDVDや書籍が出版されています。

この公聴会から1年半後の2009年9月、日本の市民団体が公聴会証言者のうちアダム・コケッシュさんとリック・レイズさんを招いて日本各地で集会が開催されました。

皮切りは9月16日の参議院議院会館内証言集会で、冬の兵士証言集会東京により開催されました。

その後は9月17日「あの戦場体験を語り継ぐ老若の集い」に参加後、9月18日には参議院議員会館で二度目の集会、そして9月19日沖縄県那覇市20日には大阪、21日には京都、22日には名古屋、そして東京では23日に開催されました。詳しくは巻末の書籍「冬の兵士」に詳しく掲載されています。

アルジャジーラが劣化ウラン報道

2009年10月12日

アルジャジーラのニュースをインターネット上で見ることが出来ます。そのサイトの訳出です。

イラクの医師はバグダッド南部でのガン患者数の急激な増加を記録しています。バービルの州で苦しむ人は3年間でほぼ十倍にまで上昇しました。

地元住民は2003年の攻撃において使用された米国の劣化ウランを非難します。2004年には約500件のガン症例が診断されました。その数は2年後におよそ1,000にまで増加しました。

ビデオインタビュー

インタビュー：アブドラ・アル・アニ

2008年に、ガンの症例は7,000まで達し七倍に増加しました。今年、今までのところで9,000以上の新しい症例があります。そして、なお数は増加しています。

モサブ・ジャスミ、イラク人研究者は、放射線がガンの増加と先天性障害の原因となると報告しますが、彼は米軍もイギリス軍も劣化ウランの影響についてはあいまいな印象を与えたと言います。

しかしながら、クリストファー・バスビー（英国の科学者で放射能汚染リスクの研究者）は、ガンと劣化ウランの決定的な関連性の証拠があると言いました。「私はウェストミッドランズで一人の湾岸戦争帰還兵士の死に関する検死にかかわりました。そして、検死陪審は私の証拠を受け入れました。」と、彼はアルジャジーラに語りました。

「ガンが劣化ウランへの暴露で引き起こされたことが検死法廷によって確認されました。」「ここ10年間で、これらの戦争に使用されたウランが確かに最も危険な物質の1つであることを明確にした研究があります。」

ビデオのURL <http://english.aljazeera.net/news/middle-east/2009/10/20091012122745236765.html>

本の紹介

世界は変えられる

JCJ日本ジャーナリスト会議

市民メディア賞受賞

TUPが伝えるイラク戦争の「真実」と「非戦」

TUP: Translators United for Peace

(平和をめざす翻訳者たち)

定価 1800 円 + 税 四六判 上製 240 ページ

ISBN4-8228-0480-1

世界は変えられる II

—戦争の被害者って? 加害者って?—

TUP: Translators United for Peace

(平和をめざす翻訳家たち)

定価 1800 円 + 税 四六判 上製 288 ページ

ISBN4-8228-0489-5

イラク占領と核汚染

森住 卓 = 写真・文

A5・160 ページ (写真 96 ページ / 文章 64 ページ)

2005 年 8 月 6 日 発行

本体価格 2000 円 ISBN4-87498-347-2

米英軍のイラク攻撃は、イラクの人々に何をもたらしたのか!? イラク戦争開戦前夜から占領下を含め通算八回、イラク各地を取材。

軍事占領と劣化ウラン弾、イエローケーキなどによる放射能に苦しむ人々の姿を、鮮烈な写真と文章で伝えるフォトドキュメント!

<http://www.morizumi-pj.com/>

「放射能兵器・劣化ウラン —核の戦場・ウラン汚染地帯」

劣化ウラン研究会編、技術と人間社 発行

2003年3月 定価 2500 円

「ボクは死ぬんだ。死んでしまうのだ。」イラクの小児病棟では連日、血を吐きながら子どもたちが死んでゆく。劣化ウランは史上最悪の大量殺りく兵器である。この兵器を使用しているかぎり、人類だけでなく、地球上の生きとし生けるものに未来はない!

<主要目次>

第1章 危険な劣化ウラン弾

第2章 劣化ウランの軍事転用

第3章 核燃料サイクルと劣化ウラン

第4章 身近にあらわれる劣化ウラン

第5章 劣化ウランおよび劣化ウラン兵器

廃絶運動

<著者紹介> (50音順)

伊藤政子 アラブの子どもとなかよくする
会代表

新倉修 青山学院大学法学部教授

野村修身 電磁波問題市民研究会代表

藤田祐幸 慶応義塾大学物理学教室助教授

森住卓 フォトジャーナリスト

矢ヶ崎克馬 琉球大学理学部教授

山崎久隆 劣化ウラン研究会代表

「冬の兵士 イラク・アフガン帰 還米兵が語る戦場の真実」

反戦イラク帰還兵の会

アーロン・グランツ

Translators United for Peace (平和
をめざす翻訳者たち) 訳

岩波書店 2009年8月

定価 1995 円

たんぼぼ舎でも取り扱っています。

劣化ウラン兵器を

造らせない 持たせない 使わせない

劣化ウラン研究会

〒161-0061 東京都千代田区三崎町2-6-2

ダイナミックビル5F たんぼぼ舎内

TEL: 03-3238-9035 (たんぼぼ舎)

E-mail: vfa01742@yahoo.co.jp (山崎) URL: <http://www.jca.apc.org/DUCJ/>

入会方法: 通信欄に住所・氏名・電話番号・Eメールアドレスを明記して、
年会費 (個人 2000 円・団体 4000 円) を下記口座へお振込みください。

郵便振替口座 00100-2-155130 劣化ウラン研究会